

# 現代中国語における「把」字句の研究

—— アスペクト的観点からの考察 ——

犬塚 優 司

## 1.

本稿は、現代中国語の「把」字句の特性を、アスペクト的観点から考察したものである。

従来の研究は、「把」字句の諸性質を、1) 述語動詞、2) 目的語となる名詞句、3) 述語動詞の前後に現れる付加成分の、三つの視点から分析を進め、その中のいずれか一つの視点から得た性質を「把」字句の主要な特性であると考えてきた。しかし、それでは、「把」字句の性質全てをうまく説明できてはいない。そこで、本稿は、新たに「把」字句の諸性質をアスペクト的な観点から分析し、「把」字句の諸性質が、アスペクト的な特性に由来することを明らかにしようとするものである。

現代中国語は、類型論的にみて、VO言語であり、その基本的な語順は、「主語－述語動詞－目的語」と考えられている。

### (1) 我打张三了。<sup>2)</sup>

Wǒ dǎ Zhāng-Sān le.

私 たたく 張三 [人名] ASP

私は張三をたたいた。

ところが、例文(2)のように、「把」を用いて、目的語を述語動詞の前に移動させることができる。すなわち、「主語－把－目的語－述語動詞」という語順になる。この構文は「把」字句と呼ばれている。

### (2) 我把张三打了。

Wǒ bǎ Zhāng-Sān dǎ le.

私 BA 張三 [人名] たたく ASP

私は張三をたたいた。

例文(1)と例文(2)の間には、論理的な意味の差異はない。しかし、わずかなニュアンスの差、すなわち、「把」字句は「行為が確実に遂行されるニュアンス」<sup>3)</sup>を持つということ、があるようである。また、「把」字句が出現するか、出現しないかについても、様々な条件がある。これらのことから、「把」字句のもつ本質的特性に迫ろうとすることが、本稿の目的である。

## 2. 0.

「把」字句は、これまで、王力(1943,1944)、呂叔湘(1955)、王還(1957)、S.-Y.W. Wang(1963)、Y.-R. Chao(1968)、A.Y. Hashimoto(1971)、Sh.-Hs. Teng(1972,1977)、S.A. Thompson(1973)、Y.-Ch. Li(1974)等により分析が試みられてきた。

これらの従来の研究者による分析は、次の三つの視点からなされている。

- 1) 述語動詞
- 2) 目的語となる名詞句
- 3) 述語動詞の前後に現れる付加成分

まず、この三つの視点からの「把」字句の性質の分析をまとめておく。

## 2. 1.

述語動詞については、次に挙げる四つの事項が指摘されている。

その第一は、「把」字句中で用いられる述語動詞の大多数は、「処置性」という意味素性をもつということである。「処置」という用語を初めて用いたのは、王力(1943,1944)である。彼は、この特徴が「把」字句の基本的な特徴と考え、この構文を「処置式」と名付けた。

### (3) a 我烧了那一封信。

Wǒ shāo-le nà yì-fēng xìn.

私 焼く ASP その 一 [数量詞] 手紙

私はその一通の手紙を焼いた。

### (3) b 我把一封信烧了。

Wǒ bǎ nà yì-fēng xìn shāo-le.

私 BA その 一 [数量詞] 手紙 焼く ASP

私はその一通の手紙を焼いた。

王力は、例文(3) bは「焼く」という行為が「処置」であることを表していると主張している。したがって、「処置性」をもたない動詞は一般に「把」字句中には現れないと述べている。たとえば、「拾う」という偶然のできごとを表す行為については、「処置性」を欠くので、「把」字句中に現れず、例文(4) bは非文になると述べている。

### (4) a 我捡了一块手绢儿。

Wǒ jiǎn-le yí-kuài shǒujiànr.

私 拾う ASP 一 [数量詞] ハンカチ

私是一枚のハンカチを拾った。

### (4) b \*我把一块手绢儿捡了。

\*Wǒ bǎ yí-kuài shǒujiànr jiǎn-le.

しかし、「処置」について、王力は明確な定義を与えていない。<sup>4)</sup>王還(1957)は、王力、呂叔湘(1955)の所論をふまえ、「処置性」を、「ある人あるいはある事物が、別の人あるいは事物に対して、何らかの積極的な行動あるいは態度をとる」ことを動詞が表現しているという性質であると、考えている。したがって、例文(5) bのような、精神上的の行為にも、それが強烈な程度を描写する場合は、「処置性」が生じ、「把」字句中でも用いることができると述べている。<sup>5)</sup>

(5) a 他把我恨。

·Tā bǎ wǒ hèn.

(5) b 他把我恨死了。

Tā bǎ wǒ hèn -sì -le.

彼 BA 私 憎む ひどくーする ASP

彼は私をひどく憎んだ。

第二は、「把」字句中で用いられる述語動詞の少数は、動詞の表す行為あるいは態度が、人あるいは事物に対して、何らかの結果を生み出す性質をもつということである。この性質は、王力の「処置」という概念での「把」字句の統合に対する呂叔湘の批判から、王還が主張した性質である。

(6) 把椅子坐塌了。<sup>6)</sup>

Bǎ yǐzi zuò -tā -le.

BA 椅子 すわる こわれる ASP

椅子をすわってこわした。

(7) 把我冷得直哆嗦。<sup>7)</sup>

Bǎ wǒ lěng -de zhíduōsuō.

BA 私 寒い [結構助詞] しきりに震える

私は寒くてしきりに震えた。

例文(6)において、「すわる」行為が、「椅子」に積極的な働きかけをもつと考えるよりも、それが「こわれる」という結果と強く結び付いていると考えたほうがよい。また、例文(7)については、「寒い」という形容詞が述語動詞の位置に置かれているが、これも、「私」が「震える」と言う結果と強く結び付いているようである。

第三は、「有」や「在」のような存在を表す動詞は、「把」字句中で用いられる述語動詞としては現れないという性質である。この性質は、王力(1943)が指摘したもので、このため、例文(8) bは非文となる。

(8) a 我有钱。

Wǒ yǒu qián.

私    ある    お金  
私はお金を持っている。

(8) b・我把钱有。

·Wǒ   bǎ   qián   yǒu.

## 2. 2.

次に、目的語となる名詞句についてまとめてみよう。

第一に、「把」字句中の「把」に導かれる名詞句の指示物は、話し手と聞き手の両方、あるいは、話し手のみに、その明確な存在が前提となっているという性質である。

この性質について、呂叔湘(1955)は、「定」対「不定」、すなわち、definite対indefiniteの対立と考えた。これに対して、王還は、「特称」対「総称」と、動作以前の指示物の「存在」対「不存在」との二つの対立を考え、「特称」で「不存在」の場合には、「把」字句中にその名詞句が現れないと主張した。

(9) a我卖了一本书。

Wǒ   mài-le   yì-běn   shū.

私    売る   ASP   一   [数量詞]    本

私は一冊の本を売った。

(9) b我把一本书卖了。

Wǒ   bǎ   yì-běn   shū   mài-le.

私    BA   一   [数量詞]   本    売る   ASP

私は一冊の本を売った。

(10) a我昨天买了一本书。

Wǒ   zuótiān   mǎi-le   yì-běn   shū.

私            きのう        買う   ASP   一   [数量詞]   本

私はきのう一冊の本を買った。

(10) b・我昨天把一本书买了。

·Wǒ   zuótiān   bǎ   yì-běn   shū   mǎi-le.

例文(9)、(10)中の「一本书」はいずれも総称的である。ところが、「売る」という行為の前に「一冊の本」は存在するが、「買う」という行為については、「買う」ことによって初めて「一冊の本」は出現するのであり、「買う」までは「一冊の本」は話し手の支配下あるいは意識下に存在するとは言えない。なお、例文(11)のように、限定性の修飾語が名詞句中にある場合、名詞句は特称的となり、「把」字句中で用いることが可能となる。

(11) 我把一本非常急需的书买了。

Wǒ bǎ yì-běn fēicháng jíxū de shū mǎi  
 私 BA 一 [数量詞] 非常に 急に必要な [結構助詞] 本 買う  
 私は一冊の非常に急に必要の本を買った。

- 1 e.

ASP

また、Chao(1968)は、「定指示(definite reference)」対「不定指示(indefinite reference)」という対立を用いて、談話的な意味の差異を見いだしている。Teng(1977)は、「限定性(actuality)」対「虚像性(virtuality)」という対立を用いて説明している。Thompson(1973)は、「文の直接目的語」という概念を用いている。Li(1974)は、[+Anaphoric] という目的語の特性を用いて説明している。これは、動作動詞のもつ [+Anaphoric] という特性が要求するものと考えている。

第二に、述語動詞が「処置性」をもつ場合は、目的語となる名詞句が表すものは、なんらかの動作あるいは態度を受けるという性質である。

第三は、述語動詞が「処置性」をもたない場合は、目的語となる名詞句が表すものは、なんらかの結果を発生させられるという性質である。

第二、第三の性質については、先に述べた動詞の性質から生じたものである。

## 2. 3.

最後に、述語動詞の前後に現れる付加成分についてまとめてみる。

第一に、「把」字句中の「把」に導かれる名詞句の後に、単音節の動詞のみが現れて、文が完結することはないという性質である。

第二に、「把」字句中の述語動詞が、多音節でない場合、あるいは、重畳されていない場合、その動詞には、なんらかの付加成分が、動詞の前あるいは後ろに、あるいは、その両方に現れるという性質である。ここに現れる成分には、次のようなものがある。

### I) 動詞の後ろに付加される成分

- |            |           |              |            |
|------------|-----------|--------------|------------|
| i) 部分目的語   | ii) 動量目的語 | iii) 保留目的語   | iv) 間接目的語  |
| v) 場所を表す補語 | vi) 方向補語  | vii) アスペクト補語 | viii) 結果補語 |

### I I) 動詞の前に付加される成分

- i) 「一」                      ii) 「都」                      iii) その他

なお、ここで示した成分のうちのいくつかについては、その成分が動詞に付加された場合、「把」字句に対応する「主語－述語動詞－目的語」構文が存在しないものがある。

第三は、可能の意味を表す「述語動詞－得－補語」という形式は、「把」字句中に現れることはないと言う性質である。<sup>8)</sup>

### 3. 0.

今までに述べてきた「把」字句の様々な性質から、次の二つの事項を導き出すことができるであろう。

- 1、「把」字句によって表される行為が、なんらかの結果を予定している。
- 2、「把」に導かれる目的語が表すものは、なんらかの行為を受け、結果へと向かう。

なぜなら、「処置」という積極的な行為あるいは態度は、当然その結果を予定している。それに対して、「把」字句によって普通表すことができない「愛する」「聞く」などの行為は、明確な結果を導き出しえない、あるいは、予定していない。また、目的語が表すものの存在を前提とするからこそ、目的語が表すものは行為を受けることができるのである。また、動詞の前後に付加される成分の中には、程度や結果を明示するものが多い。

今挙げた、二つの事項は、きわめてアスペクト的である。

また、「把」字句中における、現代中国語のアスペクト助詞「了」「着」の出現状況をみると、次のようである。

#### (12) a 我把小说看完了。

Wǒ bǎ xiǎoshuō kàn-wán -le.

私 BA 小説 読む 終える ASP

私は小説を読み終えた。

#### (12) b 我把小说看着。

Wǒ bǎ xiǎoshuō kàn-zhe.

私 BA 小説 読む ASP

私は小説を読んでいます。<sup>9)</sup>

#### (13) a 你把信写了吧。

Nǐ bǎ xìn xiě-le ba.

あなた BA 手紙 書く ASP [文末助詞]

あなたは手紙を書いたの。

(13) b・你把信写着吧。

• Nǐ      bǎ    xìn   xiě-zhe      ba.

あなた   BA   手紙   書く   ASP   [文末助詞]

あなたは手紙を書いているの。<sup>10)</sup>

「了」は動作や変化が既に完了したことを表すものであり、「着」は動作や変化が継続中であることを表すものである。

以上のことから、筆者は、「把」字句にはなんらかのアスペクト的特性があると考えるのである。そして、その特性は、「状況のテリック性」ではないかと思われる。

### 3. 1.

「テリック(telic)」とは、Garey(1957)の用語である。これは、動詞を、動詞の表す活動がはっきりした目標点に向かって進行するという性質のものか、目標点を必要としない性質のものかによって、分類しようという試みのために提案された概念である。

(14) a Il se noyait.

彼は溺れていた。

(14) b Il s'est noyé.

彼は溺死した。

(15) a Il jouait.

彼は遊んでいた。

(15) b Il a joué.

彼は遊んだ。

(14) aであったとしても、(14) bであるとはかぎらない。なぜなら、自力あるいは他者の救助によって溺死に到らないこともありうるからである。それに対して、(15) aであれば、それが中断されたとしても、(15) bである。Gareyは、noyerのように、目標点をもつ活動を表す動詞を「テリック(目標)動詞<sup>11)</sup>(telic verb)」と呼び、jouerのように、目標点を持たない活動を表す動詞を「アテリック(非目標)動詞<sup>12)</sup>(atelic verb)」と呼んだ。

Gareyがもっぱら動詞の分類を中心に試みた「テリック」対「アテリック」の対立を、Comrie(1976)は、「状況」の中に見いだそうと試みた。

(16) John is singing songs.

ジョンは歌を歌っている。

(17) John is making a chair.

ジョンは椅子を一つ作っている。

「make a chair」と述べられる状況は、それに目標点、すなわち、椅子の完成する点を組み込んでいるが、「sing songs」と述べられる状況は、このような目標点をもたない。Comrieは、目標点が組み込まれている状況を「テリック(telic)」と呼び、目標点が組み込まれていない状況を「アテリック(atelic)」と呼んだ。また、テリックな状況は、定められた状況に向かう過程を伴うこと、目標点を超えてその過程を継続することができないことを指摘している。

筆者は、このComrieのいう「テリックな状況」の場合にのみ、「把」字句が用いられると考えるのである。

### 3. 2.

述語動詞についてみよう。

一般に、「処置性」を持つ動詞によって作り出される状況は、「状況のテリック性」<sup>13)</sup>をもっていと考えられる。なぜなら、前に述べたように、「処置性」を「ある人あるいはある事物が、別のある人あるいは事物に対して、なんらかの積極的な行動あるいは態度をとることを表現しているという性質」と考える以上、それは、その行動あるいは態度をとったことによって実現される結果を予定していることになる。この結果こそが、まさに、目標点となる状況である。例文(3) aでは、「那一封信」が焼けてなくなるという目標点が明確に存在する。

(3) b 我把一封信烧了。

Wǒ bǎ nà yì-fēng xìn shāo-le.

私 BA その 一 [数量詞] 手紙 焼く ASP

私はその一通の手紙を焼いた。

精神的行為は、一般に、「状況のテリック性」をもち得ない。

(18) a 我爱他。

Wǒ ài tā.

私 愛する 彼

私は彼を愛している。

(18) b 我把他爱。

Wǒ bǎ tā ài.

ところが、張仁政(1979)が指摘しているように、例文(19) bのような、ある種の動詞付加成分を伴う場合は可能である。

(19) a 我爱上了她。

Wǒ ài -shang -le tā.

私 愛する [方向動詞] ASP 彼女

私は彼女に恋してしまった。



(19) b 我把她爱上了。<sup>14)</sup>

Wǒ bǎ tā ài -shang -le.

私 BA 彼女 愛する [方向動詞] ASP

私は彼女に恋してしまった。

例文(19) bでは、恋い焦がれている状態という目標点生まれ、「状況のテリック性」が生じたのである。

偶然のできごとについて、それを、「把」字句によって表せないことも、「状況のテリック性」によって説明可能である。

(4) a 我捡了一块手绢儿。

Wǒ jiǎn-le yí-kuài shǒujiànr.

私 拾う ASP 一 [数量詞] ハンカチ

私は一枚のハンカチを拾った。

(4) b 我把一块手绢儿捡了。

Wǒ bǎ yí-kuài shǒujiànr jiǎn-le.

例文(4)において、「捡」は、「だれの物でもない物を自分の支配下に置く」<sup>15)</sup>という意味であり、「捡了」という表現の主眼は、行為そのものではなく、支配の存在にある。したがって、その目標点を見いだすことは難しく、また、その状態に向かうなんらかの過程も存在しないのである。つまり、「状況のテリック性」はあり得ないのである。

また、傅雨賢(1981)が、「主語－述語－目的語」の構文に転換できない「把」字句中の動詞の類として、二音節以上の語に接尾辞「化」の付いた動詞の類を挙げていることは、示唆的である。

(20) 不要把马克思主义庸俗化、简单化、教条化、……。

Búyào bǎ Mǎkèsī-zhǔyì yōngshúhuà,

…してはならない BA マルクス主義 通俗化する

マルクス主義を通俗化したり、簡単にしたり、教条化してはならない。……。

jiǎndānhuà, jiàotiáohuà, ……。

簡単にする

教条化する

例文(20)において、「通俗」的な状態、「簡単」な状態、「教条」的になった状態が目標点であり、その様な状態に到ることを表現することは、「状況のテリック性」を強調することにほかならない。したがって、これらの類の動詞が目的語をとる場合は、必ず「把」が用いられることになるのである。

3. 3.

次に、目的語となる名詞句について考えてみよう。

目的語となる名詞句の指示物が明確に存在するという性質は、目標点が組み込まれている状況であること、すなわち、「状況のテリック性」の存在の条件である。なぜなら、目的語となる名詞句の指示物も、当然、状況の一部であるから、それが不明確なものであっては、目標点も明確なものとはなり得ないからである。

(9) a 我卖了一本书。

Wǒ mài-le yì-běn shū.

私 売る ASP 一 [数量詞] 本

私は一冊の本を売った。

(9) b 我把一本书卖了。

Wǒ bǎ yì-běn shū mài-le.

私 BA 一 [数量詞] 本 売る ASP

私は一冊の本を売った。

(10) a 我昨天买了一本书。

Wǒ zuótiān mǎi-le yì-běn shū.

私 きのう 買う ASP 一 [数量詞] 本

私はきのう一冊の本を買った。

(10) b 我昨天把一本书买了。

Wǒ zuótiān bǎ yì-běn shū mǎi-le.

例文(9)の状況において、「状況のテリック性」の存在は明白である。「一冊の本が売れる」という目標点が存在しているからである。ところが、「一冊の本を買う」という状況は、「買う」という行為がなされて初めて生じる状況であり、話し手はその状況に到るまでの過程を意識していない。つまり、「売る」場合は、売り初めがあり、「売れた」点があるが、「買う」場合は、「買った」という点はあるが、買い初めは不明確である。したがって、目標点をもっているとはいえない。ただし、同じ「買う」という行為についても、なんらかの目標点が存在する場合は、可能である。

(21) 昨天我把一本书买错了。

Zuótiān wǒ bǎ yì-běn shū mǎi-cuò-le.

きのう 私 BA 一 [数量詞] 本 買う まちがう ASP

きのう、私は一冊の本を買いまちがえた。

例文(21)において、「状況のテリック性」は存在している。なぜなら、「買った」という点と「まちがえた」という点の間に過程が存在するため、「買いまちがえる」という目標点が生じた

からである。

ところが、Comrieが「テリックな状況」として挙げた、「make a chair」や「sing a song」を中国語に訳してみると、例文（22）、（23）のようになる。

（22）a 他作了一把椅子。

Tā zuò-le yì -bǎ yǐzi.

彼 作る ASP 一 [数量詞] 椅子

彼は一脚の椅子を作った。

（22）b 他把一把椅子作了。

·Tā bǎ yì-bǎ yǐzi zuò-le.

（23）a 她唱歌了一只。

Tā chànggē-le yì -zhī.

彼女 歌を歌う ASP 一 [数量詞]

彼女は一曲歌を歌った。

（23）b 她把歌唱一只。

·Tā bǎ gē chàng-le yì-zhī.

「把」字句で表現しようとする、（22）b、（23）bのように、非文となる。ところが、例文（24）、（25）のように、目標点となる状況をより明確なものとした場合は成立する。

（24）他把法国歌唱了。

Tā bǎ Fǎguó guóge chàng-le.

彼 BA フランス 国歌 歌う ASP

彼はフランス国歌を歌った。

（25）她把“夜来香”唱了。

Tā bǎ “Yèláixiāng” chàng-le.

彼女 BA “夜来香”（歌の題名） 歌う ASP

彼女は“夜来香”を歌った。

つまり、「一脚の椅子を作る」、「一曲の歌を歌う」という状況は、現代中国語にとってのテリック性を持たないのである。なぜなら、「作る」過程において「椅子」がどのような形で完成するか、「歌う」過程においてどのような形で「歌」が歌い上げられるか、完成するまで、歌い終わるまで、明確なものではないからである。明確な形での目標点は、そこに組み込まれていないからである。ところが、「フランス国歌を歌う」、「“夜来香”を歌う」という状況においては、歌い上がりが明確な一つの形として歌い終わる前から存在している。明確な目標点があるのである。

以上のことから、状況の中に組み込まれている目標点の明確さは、極めて明確なものから、不明確なものへと連続的に推移し、どこまでを「明確な」目標点とするか、すなわち、どこで「状況の

テリック性」を認めるかは、各言語によって恣意的なものであると考えられる。そして、英語に比べて、中国語は、より強い明確さを要求しているのである。

### 3. 4.

最後に、述語動詞の前後に現れる付加成分について、二つの例を挙げて説明する。その他の付加成分についても、これと同様に、「把」字句が「状況のテリック性」をもつと考えられる。

(26) 我把书放在桌子上。

Wǒ bǎ shū fàng-zài zhuōzi-shàng.

私 BA 本 置く [介詞] 机 上

私は机の上に本をおく。

例文(26)のように、場所を表す補語が動詞の後ろに来る場合、その状況は極めて「テリック的な」ものになる。「置く」という動作によって、「本」は「机の上」にないわけにはいかないからである。「机の上」に置かれるという明確な目標点があり、存在せずにはいられないからである。場所を表す補語が述語動詞の後ろに置かれる場合、必ず、目的語が「把」を伴って述語動詞の前に置かれなければならない理由はここにあると思われる。

(27) 他把什么都忘了。

Tā bǎ shénme dōu wàng-le.

彼 BA 何か 全て 忘れる ASP

彼は何かかもみんな忘れてしまった。

例文(27)のように、「都」が動詞の前にくる場合、目的語として表されるもの「全て」という意味であり、明確な目標点をもつことになるので、「状況のテリック性」をもつことになる。

### 4.

以上の考察から、「把」字句によって表現される状況には、常に明確な目標点が存在し、また、明確な目標点が強く話し手に意識される場合、その状況は「把」字句によってのみ表現可能となることが明らかになった。また、「把」字句が「行為が確実に遂行されるニュアンス」を持つことも、明確な目標点が存在を示したことによるものである。つまり、このニュアンスは、筆者が考えるところの「状況のテリック性」の明示によるものである。

これらのことから、「把」字句は、話し手が「状況のテリック性」を明示しようとするとき現れるものであると、結論づけることができよう。

また、「把」によって導かれる名詞句の指示物は、「状況のテリック性」の前提となるところの明確な目標点へと向かうものと考えられる。<sup>16)</sup>

## 注

- 1) 本稿は、修士論文として、広島大学大学院文学研究科に提出した「現代中国語における「把」字句の研究」、および、西日本言語学会第15回研究発表会(1985年9月7日、於広島文教女子大学)での発表(本稿と同じ題目)に、加筆訂正したものである。なお、修士論文作成においては、広島大学の、古田敬一先生、奥田邦男先生、吉川守先生、古浦敏生先生のご指導とご助言をいただいた。
- 2) 例文は、第一行に漢字(簡化字)による中国語の表記を、第二行にその拼音表記(ハイフンは、文法的要素の境界の表示のためのもので、その使い方は、一般的なものとは異なる)を、第三行に各要素の日本語訳または文法的説明(文法的説明は[ ]の中に示した。なお、ASPはアスペクト助詞を、BAは「把」を表す)を、第四行に日本語訳を、示した。なお、例文の適格性の判断については、広島大学大学院文学研究科学学生、張翔氏(上海市出身)、郭海良氏(同)にお願いした。この場を借りて、感謝の意を表する。
- 3) 太田辰夫(1984)参照。
- 4) 王力(1944)は「「把」字が導くものは、ある種の「なす」行為、ある種の施行、ある種の処置である」と述べている。
- 5) 王力(1943,1944)は、精神的な行為を表す動詞は「把」字句中で用いられないと述べている。
- 6) Chao(1968)の例文。
- 7) 王還(1957)の例文。
- 8) この性質は、非常に重要な問題を含んでいるが、本稿では扱わなかった。
- 9) 日本語訳の文は適格文である。
- 10) 日本語訳の文は適格文である。
- 11) 山田小枝(1984)は目標動詞と呼んでいる。
- 12) 山田小枝(1984)は非目標動詞と呼んでいる。
- 13) Comrieに厳密に従えば、「テリック性」とは状況についての性質だから、「状況のテリック性」と言う表現は冗長的であることになる。しかし、他の研究者が「テリック性」を、必ずしも状況にのみ限定していないことや、「状況」についての性質であることを示しておきたいことなどの理由で、敢えて、この表現を用いた。
- 14) 張仁政(1979)は、「私」にとって「彼女」が普通恋(愛)してはいけない対象である場合を想定している。
- 15) 「落しているものを手にとる」という意味においては、「把」字句中で用いることができる。
- 16) 王還(1957)に見られる、次の例文お組について、
  - a 他把一把花插在花瓶里。

Tā bǎ yì-bǎ huā chā zài huāpíng-lǐ.

彼 BA — (数量詞) 花 挿す (介詞) 花瓶 内  
彼は一束の花を花瓶に挿した。

b 他把花瓶插了一束花。

Tā bǎ huāpíng chā-le yì -bǔ huā.

彼 BA 花瓶 挿す ASP — (数量詞) 花  
彼は花瓶には一束の花を挿した。

aにおいては、「一束の花」が花瓶に挿されるという状況に向かい、bにおいては、「花瓶」が一束の花を挿されるという状況に向かうものと、考えることができる。

#### 参考文献

- Chafe, W.L. (1970); Meaning and the Structure of Language (The University of Chicago Press)
- チェイフ, W.L. 著、青木晴夫訳 (1974); 意味と言語構造 (大修館書店)
- 張仁政 (1979); 処置式の目的語、動詞及びその付加語 (久留米大学論叢 Vol.28 No.1 pp.63-67)
- Chao, Y.-R. (1968); A Grammar of Spoken Chinese (University of California Press)
- 趙元任著、呂叔湘訳 (1979); 漢語口語語法 (商務印書館)
- \_\_\_\_\_ 著、丁邦新訳 (1980); 中國話的文法 (中文大學出版社)
- Cheung, H.-N.S. (1973); A comparative study in Chinese grammar : The ba-construction (Journal of Chinese Linguistics Vol.33 No.1 pp.343-382)
- Chomsky, N. (1965); Aspect of the Theory of Syntax (M.I.T. Press)
- チョムスキー, N. 著、安井稔訳 (1970); 文法理論の諸相 (研究社)
- 中国語学研究会編 (1969); 中国語学新辞典 (光生館)
- Comrie, B. (1976); Aspect (Cambridge University Press)
- Frei, H. (1956); The ergative construction in Chinese ; theory of Pekinese PA (言語研究 第31号 pp.22-50 (part 1)、第32号 pp.83-115 (part 2))
- 傅雨賢 (1981); ”把”字句与”主謂客”句的轉換及其条件 (語言教學與研究 1981年 第一期 pp.27-44)
- Garey, H.B. (1957); Verbal Aspect in French (Language Vol.33 No.1 pp.91-110)
- Hashimoto, A.Y. (1971); Mandarin syntactic structure (Unicon 8 pp.1-149)
- 香坂順一 (1962); 現代中国語文法 (光生館)
- Li, Y.-Ch. (1974); What does ”disposal” mean? Feature of the verb and noun in Chinese (Journal of Chinese Linguistics Vol.2 No.2 pp.200-218)

- 呂叔湘(1944)；中国文法要略（商務印書館）
- \_\_\_\_\_(1955a)；漢語語法論文集（商務印書館）
- \_\_\_\_\_(1955b)；把字用法的研究（呂叔湘(1955a) pp.125-144）
- 太田辰夫(1984)；”給” ”把”（中国語 No.299 pp.16-18）
- Teng, Sh.-Hs.(1972,1977)；A Semantic Study of Transitivity Relations in Chinese（學生書局）
- Thompson, S.A.(1973)；Transitivity and some problems with the ba construction in  
Mandarin Chinese (Journal of Chinese Linguistics Vol.1 No.2 pp.208-222)
- 藤堂明保(1979)；中国語概論（大修館書店）
- 土屋由一編著(1979)；中国語文法入門（大学書林）
- 王還(1957)；”把”字句和”被”字句（上海教育出版社）
- 王力(1943)；中国現代語法（中華書局）
- \_\_\_\_\_(1944)；中国語法理論（中華書局）
- Wang, S.-Y.W.(1963)；Some syntactic rules for Mandarin (Proceedings of the Ninth  
International Congress of Linguists pp.192-202)
- 山田小枝(1984)；アスペクト論（三修社）